

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

名古屋・大阪の大都市圏にまたがる全国上位のものづくり県 (2018年工業統計で全国9位)

人口：約179万人 面積：5774.45km²



海の資源を採りすぎない海女漁が受け継がれる地



G7 2016 ISE-SHIMA SUMMIT

- 2016年「伊勢志摩サミット」県内開催 (パリ協定の早期実施をコミット)
- 2021年「太平洋・島サミット」県内開催予定 (太平洋島しょ国首脳が会する)

今後のビジョン・計画

「協創」の視点に「Society5.0」及び「SDGs」の視点を取り入れ、

三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会

の実現をめざす。



SDGsに関する特徴的な取組

★「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」にSDGsの視点を追加

・2020年度から4年間の中期の戦略計画にSDGsの視点を取り入れ、施策を推進

- 視点① 誰一人取り残さない(包摂性)
- 視点② 全てのステークホルダーが役割を担う(参画型)
- 視点③ 経済・社会・環境の3つの側面で統合的に取り組む(統合性)

(◆三重県のSDGsの取組紹介HP: <https://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/m0005000049.htm>)

★令和元年12月に「脱炭素宣言」



・地球温暖化防止は待ったなしの状況であり、世界的にも、パリ協定の取組がスタートする2020年を目前として、三重県は、2050年までに県域からの温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す脱炭素宣言を行った。(2019年12月)

(小泉環境大臣との対談の様子)



★「ミッションゼロ2050みえ 推進チーム」の取組



・「脱炭素社会」の構築に向けた産学官等によるプラットフォームを構築し、県内若者が参画することで、脱炭素の取組の普及加速、若者のシビックプライドの醸成、県内企業の製品開発の促進、魅力向上、さらには、若者の県内企業への就職、県内定着へとつなげていく。企業や若者にもメリットが生じる、自律的好循環をめざす。

